

題材名『願いがかなう木のオブジェ』

ヒットレベル

8.5
10

(6時間)

【題材について】 ※ PR文「机の上に飾って毎日見ながら、願いがかなうようにがんばろう！」

- 材料となる木切れを、つくるために、のこぎりで切ることに始まり、木切れ同士を接着剤や釘で接合するなどの行為を通して、木のもつ特性を五感で感じ、いろいろな重ね方を考え、新しい形を作り上げようとするとともに、その形から発想して、さらに色や他の材料を組み合わせるなどの工夫を重ねることができる。

【児童の実態とその指導について】

- 本学級の児童は、技能面には差があるが、図画工作科が好きで、意欲的である。自分なりの発想を楽しもうとする傾向はあるが、最後まで集中して作品を仕上げることは苦手な児童が多い。また、友だちの作品には関心が強いが、なかなか自分なりの発想が浮かばなかったり、取りかかりに時間がかかったりする児童もいる。
- そこで、作品のイメージが持てやすいように写真や教師の作品を見せたり、発想が浮かびやすいようにいろいろな大きさや形の木片を準備したりする。また、ミニ鑑賞タイム(相談タイム)を設け、友だちとの意見交流の中で、イメージをふくらませたい。

【題材の目標】

- 道具を正しく大切に扱い、木をいろいろな長さや形に切ったりして楽しもうとする。
- 木片をつなぎながら想像をふくらませて、イメージに合った形をつくりだす。
- 友だちの作品について、お互いに話したり、見せ合ったりしてよさを味わう。

【題材の評価規準】・・・A 表現 (2)絵や立体、工作

	ア 造形への関心・意欲・態度	イ 発想や構想の能力	ウ 創造的な技能	エ 鑑賞の能力
題材の評価基準	自分の考えたイメージを木片を使って形にすることを楽しもうとしている。	自分の表したいことを見付けて、木片でどのような形にするかを考えている。	木片の特徴を生かしながら、用具の使い方や表し方を工夫している。	自分の気持ちを話したり、友人の考えを聞いたりしながら、作品の共通点や相違点、表現の工夫などをとらえている。
学習活動における 具体的評価基準	①自分の考えたイメージを木片を使って形にすることを A:十分 B:自分なりに楽しもうとしている。	①自分の表したいことを見付けて、木片でどのような形にするかを A:十分 B:自分なりに考えている。	①木片の特徴を生かしながら、用具の使い方や表し方を A:十分 B:自分なりに工夫している。	①自分の気持ちを話したり、友人の考えを聞いたりしながら、作品の共通点や相違点、表現の工夫などを A:十分 B:自分なりにとらえ、伝える。

【指導と評価の計画】・・・全6時間<本時2/6>

時間	学習活動	教師の支援と<評価>
第一次	1 のこぎりを使った木の切り方やくぎの打ち方を工夫しよう。 のこぎりや金づちの使い方を知る。	・ 木の切り方や金づちの使い方をグループごとに個別指導する。<ア-①、ウ-①>・活動の様子の観察
第二次	2 3 4 5 『願いがかなう木のオブジェ』を作ろう。 木片をつなぎながら想像をふくらませて思いに合った形を作り出す。	・ 作品のイメージが持てやすいように写真や教師の作品を見せたり、発想が浮かびやすいようにいろいろな大きさや形の木片を準備したりする。 <イ-①、ウ-①>・活動の様子の観察、イメージ図
第三次	6 オブジェを見せ合って、よさや工夫を伝え合おう。 よさや工夫を伝え合う。	・ 鑑賞の視点を伝える。<エ-①>・鑑賞カード

〔本時のめあて〕

- ◎ のこぎりを使い、木をいろいろな長さや形に切り、つなぎながら想像をふくらませて思いに合った形をつくり出そうとすることを楽しもう。(図画工作)
- ◎ 自分の願いが表れるように、最後まで丁寧につくろう。(人間形成)

「造形パワー」

- ◎ 題材の工夫
- ◎ 鑑賞(関わり合い)
- ◎ 受容的評価

本時の展開【第2時】

学 習 活 動

教師の支援と<評価> (☆個別支援アイテム)

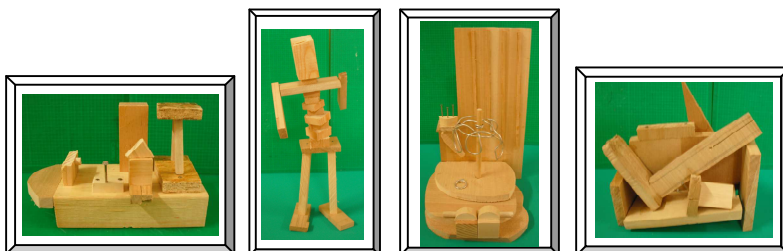
1 本時のめあてを知る。

『願いがかなう木のオブジェ』を作ろう。

めあて

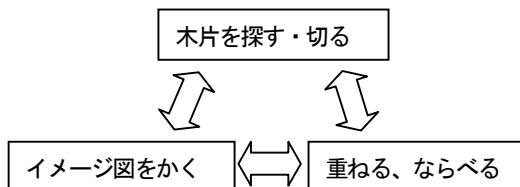
- ・ 木をいろいろな長さや形に切り、つなぎながら想像をふくらませて思いに合った形を作り出すことを楽しもう。
- ・ 自分の願いが表れるように、丁寧に作ろう。

- 「オブジェ」のイメージがわくように、教師の作品を見せ、どんな願いが込められているのか想像させる。



川村「????」 水野「????」 中川「????」 山名「????」

2 材料を集めながら、自分の発想をふくらませる。



- 「木片を探す(選ぶ)・切る」「重ねる・ならべる」「イメージ図をかく」の3つの作業があるが、特に順番は決めず、児童の自由な動きに任せる。

- イメージ図は、大まかなものでよい、途中で変わってもよいことを知らせ、イメージと違うものができても、「願い」がこもっていればよいことを確認する。

☆ なかなかイメージが作れない児童には、友だちのイメージ図を見て回らせたり、教師作品を触らせたり、木片を見ながら“願い”について語り合ったりする。

- <イ-①>
- ・ 活動の様子を観察
 - ・ イメージ図

【評価規準】

- A : 作業時間全般を通してイメージに合った形をつくり出そうとした。
- B : 作業時間の半分以上イメージに合った形をつくり出そうとした。

3 材料やイメージ図を見ながら、見通しを持つ。(友だちの意見も参考にする)

- イメージ通りの作品にするための、材料の選び方や、接合の方法を考えさせ、イメージ図にメモさせる。

【準備物】 木切れ(児童からも集める)、のこぎり、金づち、くぎ、くぎ抜き、ペンチ、化学接着剤、ビニル袋、筆記用具、その他

(資料：中学年ブロックでの協議のポイント)

- 教師の作品を見せることについて・・・抽象的な形を強調←児童が影響されすぎないように
- 素材(木片)を生かした作品づくり・・・今あるものを生かした使い方
- イメージ図の必要性・・・かけないものはつukれない⇒評価と支援の糸口
- 発想が浮かばない児童への支援・・・言葉での表現(語り合い)⇒イメージ図⇔材料探し・材料づくり

